

アドインピックアップ検品 TypeA プログラム  
for アシストパック Pro BHT-1500  
取扱説明書 第1版



2015年 12月 20日  
コンピュータ・アシスト株式会社



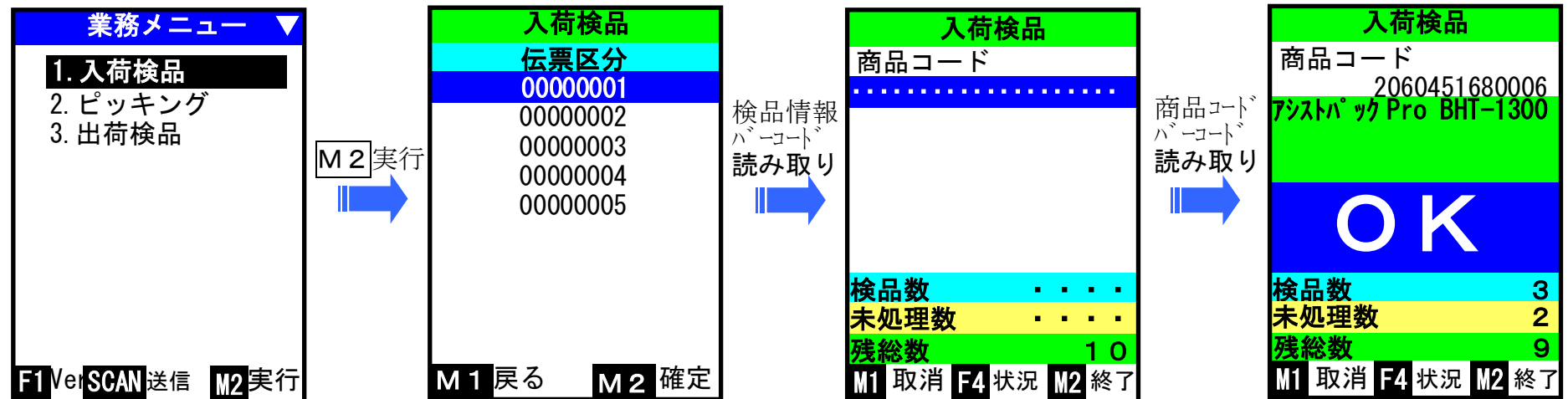
## 目次

1	プログラム概要	1
2	プログラムのインストール	2
2-1	アドインピッキング検品プログラムダウンロード	2
2-2	ピッキング検品プログラムの動作設定	4
1)	動作モード	5
2)	データ区分	7
3)	伝票区分	14
4)	ピッキング／検品情報	15
5)	ピッキング／検品処理画面	17
6)	処理結果	19
7)	設定更新	21
2-3	業務設更新	22
3	アドインピッキング検品プログラム実行	23
3-1	検品モード	23
3-2	ピッキングモード	26
3-3	入力／データ処理エラー表示	29
3-4	保存データ送信	30
3-5	マスターファイル受信	30

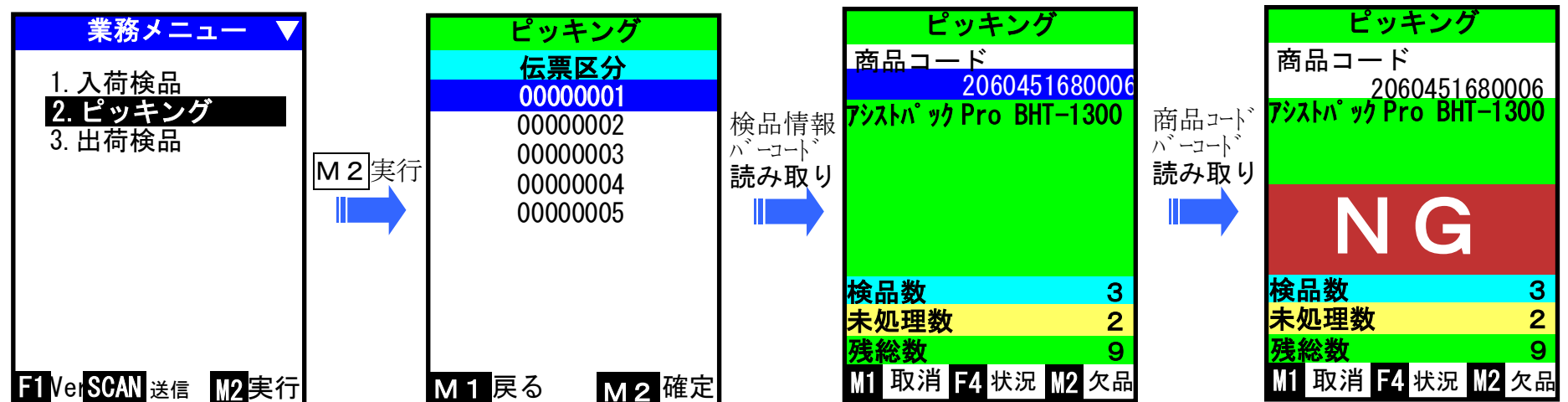
## 1 プログラム概要

アシストパック Pro BHT-1500 のアドイン業務プログラムとして動作するピッキング／検品プログラムです。  
ピッキング／検品の情報ファイルを受信し、ピッキング／検品の処理を行います。

☐ 検品モード



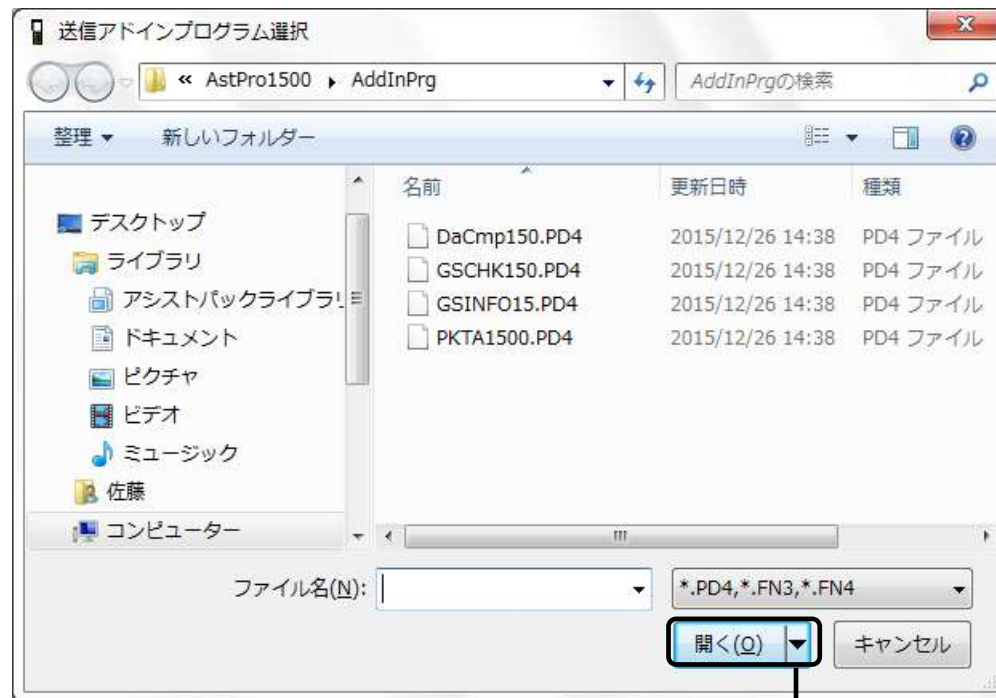
☐ 検品モード



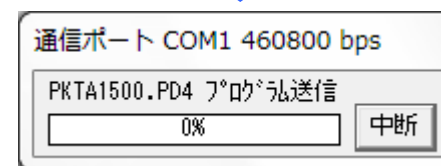
## 2 プログラムのインストール

### 2-1 アドインピックアップ検品プログラムダウンロード

アドインピックアップ検品プログラム「PKTA1500. PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



PKTA1500. PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

**M1** 戻る **M2** 実行

**M2** 実行



**ファイル受信**

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth
4. #####. PD4
5. \$\$\$\$\$\$. PD4

**M1** 戻る **M2** 選択

**M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**M1** 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

PKTA1500.PD4 送信中

65%

中断



プログラム転送

正常終了

OK



## 2-2 ピッキング検品プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「PKTA1500.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

業務設定(ピッキング検品TypeAサンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ的外部表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択  
基本設定 動作設定

業務メニュー  
入荷検品

BHT-1500画面  
入荷検品

設定する  
アドイン業務プログラムの画面表示になります。

業務名 入荷検品 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム プログラム名 PKTA1500.PD4

アドインプログラム設定

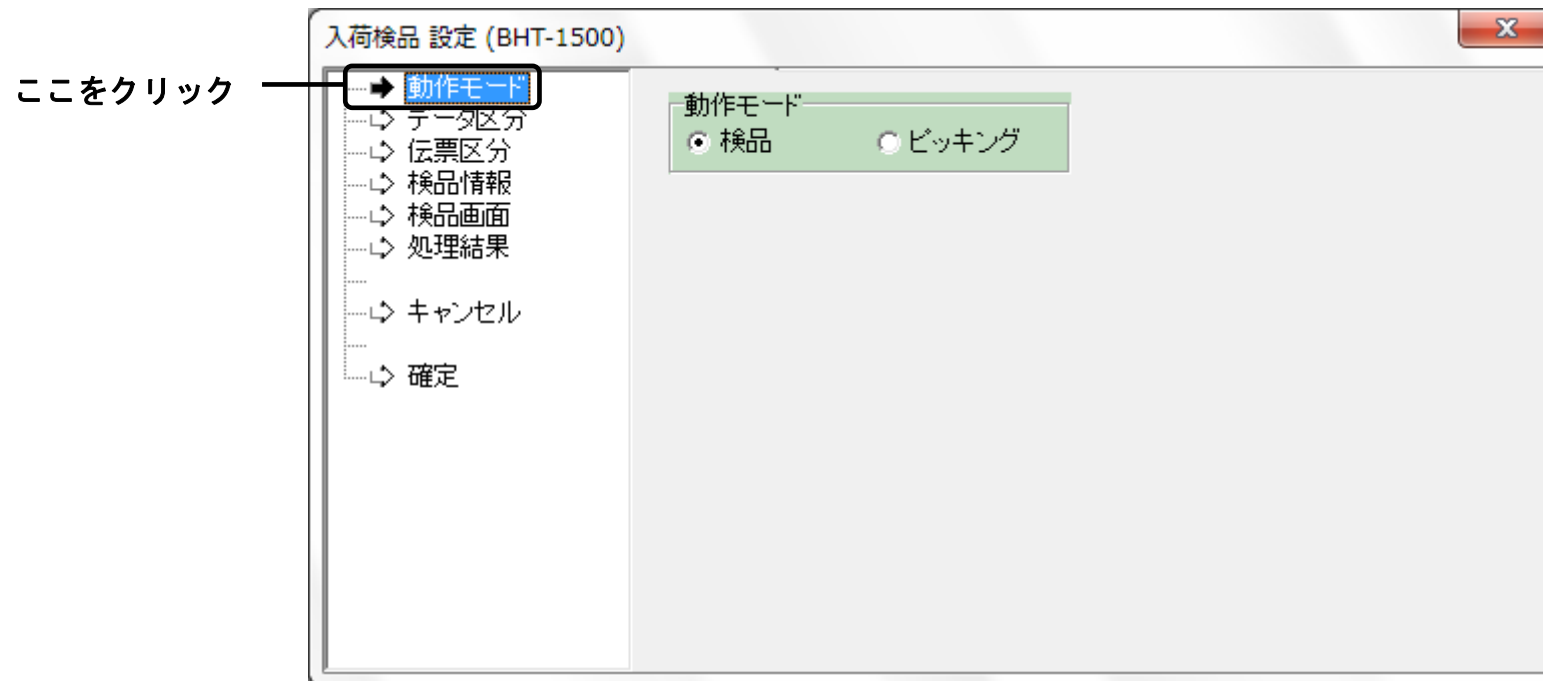
「アドイン業務プログラム」を選択

「PKTA1500.PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

## 1) 動作モード

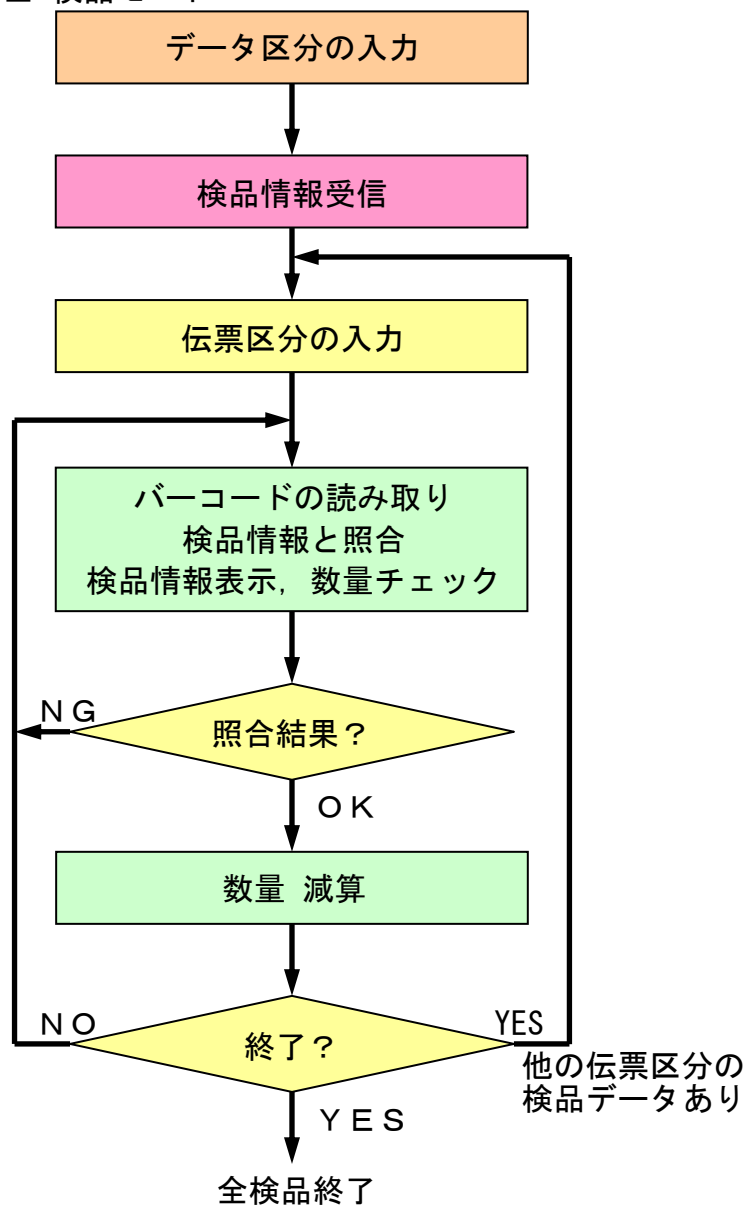
検品モードまたはピッキングモードを設定します。



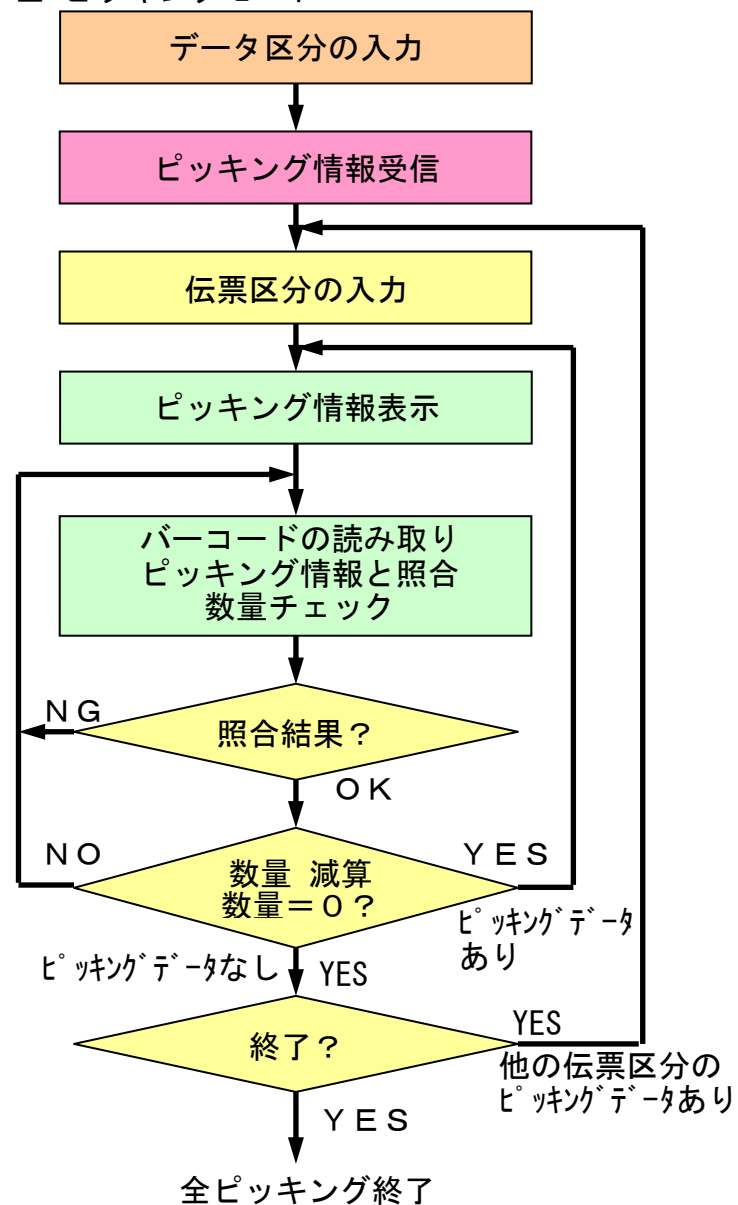
動作モード	説明
検品	入荷商品や品揃え後の出荷検品等に使用します。 検品情報 y を受信して、バーコードを読み取って商品コードと数量を照合します。
ピッキング	出荷等における商品の収集と検品をします。 ピッキング情報を受信して、画面に表示する情報に従って商品を収集し、 バーコードを読み取って商品コードと数量を照合します。

## ■ 操作手順

### □ 検品モード



### □ ピッキングモード





## 2) データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック →

入荷検品 設定 (BHT-1500)

→ 動作モード

→ **データ区分**

→ 伝票区分

→ 検品情報

→ 検品画面

→ 処理結果

→ キャンセル

→ 確定

☒ データ区分を使用する

項目名

データ形式  データ表示

入力桁数 最大  最小

☒ バーコード使用

☒ 文字列表示マスターファイルを使用する

表示用マスターファイル

☐ マスターデータがない場合エラー

「データ区分を使用する」をチェックする

マスターファイルを使用して文字列を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル名」を設定します。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 7桁表示), 日付 (YYYY/MM/DD), 日付 (YY/MM/DD), 日付 (MM/DD), 時刻 (HH:MM) から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字 (0 詰め表示), 数字 (0 7桁表示) のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	「バーコード 使用」をチェックして、「バーコード 読取設定」ボタンをクリックするとバーコード 読取設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルとフィールド情報を設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

## ● バーコード読取設定

仕入先 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☐ あり ☐ STF ☐ なし ☐ あり

☒ NW7 ☐ なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ なし ☐ あり

☐ Code93 ☒ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☐ データチェックを使用する

入力データ選択  桁目から  桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

「1桁目から10桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から10桁」がデータ区分のデータになります。

「99桁目から10桁」と設定した場合は、  
「末尾から10桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。NW7の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
入力データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字左記所	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。

## ○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクспанデッド, エクспанデッドスタック
ユーザー定義	2段バーコード(のみ)の読取設定など、ユーザー独自に読取設定をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, . . . . ., <第20読み取りコード> <b>不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。</b>



読取バーコードのユーザー定義は、ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。  
 <第1読み取りコード>、<第2読み取りコード>、・・・・・・、<第16読み取りコード>

[illegible]

BHT-BASICプログラミングマニュアル (BHT-1500シリーズ用) より

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目]] [サプリメンタル]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 ( I T F )

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Codabar (NW7)

書式: N [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 39

書式: M [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ Code 93

書式: L [: [最小桁数 [-最大桁数] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



#### □ GS1-128, EAN-128, Code 128

書式: K[:[最小桁数 [-最大桁数]]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

#### □ スタンダード2of5 (STF)

書式: H[:[最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

#### □ GS1 DataBar (RSS)

書式: R[コード:[最小桁数 [-最大桁数]] [Stacked]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional)
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上のGS1 DataBarコードのどのどれでも読むことができます。



**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

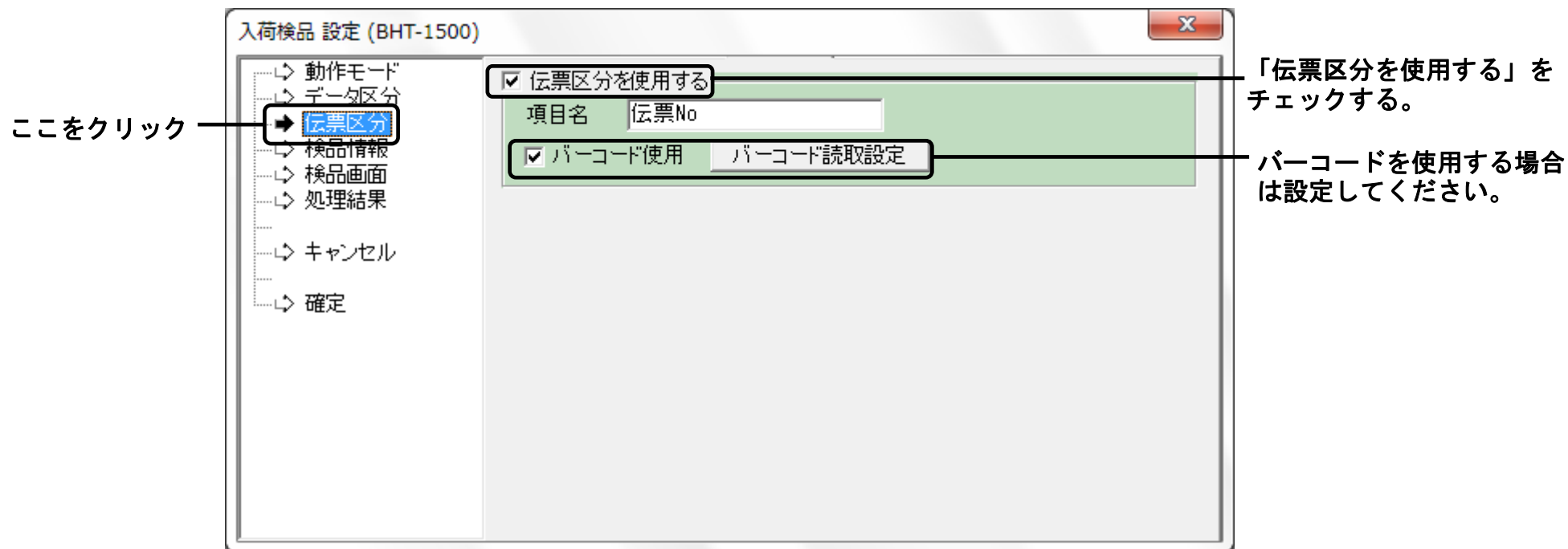
**Stacked**は、**Stackedタイプの読み取り指定**です。Sを指定すると、**Stackedタイプの読み取りも可能**とまります。**Stacked**は、コード指定がEとSの場合に有効です。

GS1 DataBar ExpandedとGS1 DataBar Expanded Stackedについて、FNC1 キャラクタは、GS キャラクタ (1Dh) に変換しバーコードバッファに転送されます。



### 3) 伝票区分

入荷 No, 出荷 No, 伝票 No などの伝票区分を使用する場合は、「伝票区分」をクリックして「伝票区分を使用する」をチェックしてください。複数の伝票のピッキング／検品情報を受信して、指定した伝票区分のピッキング／検品の処理を行います。

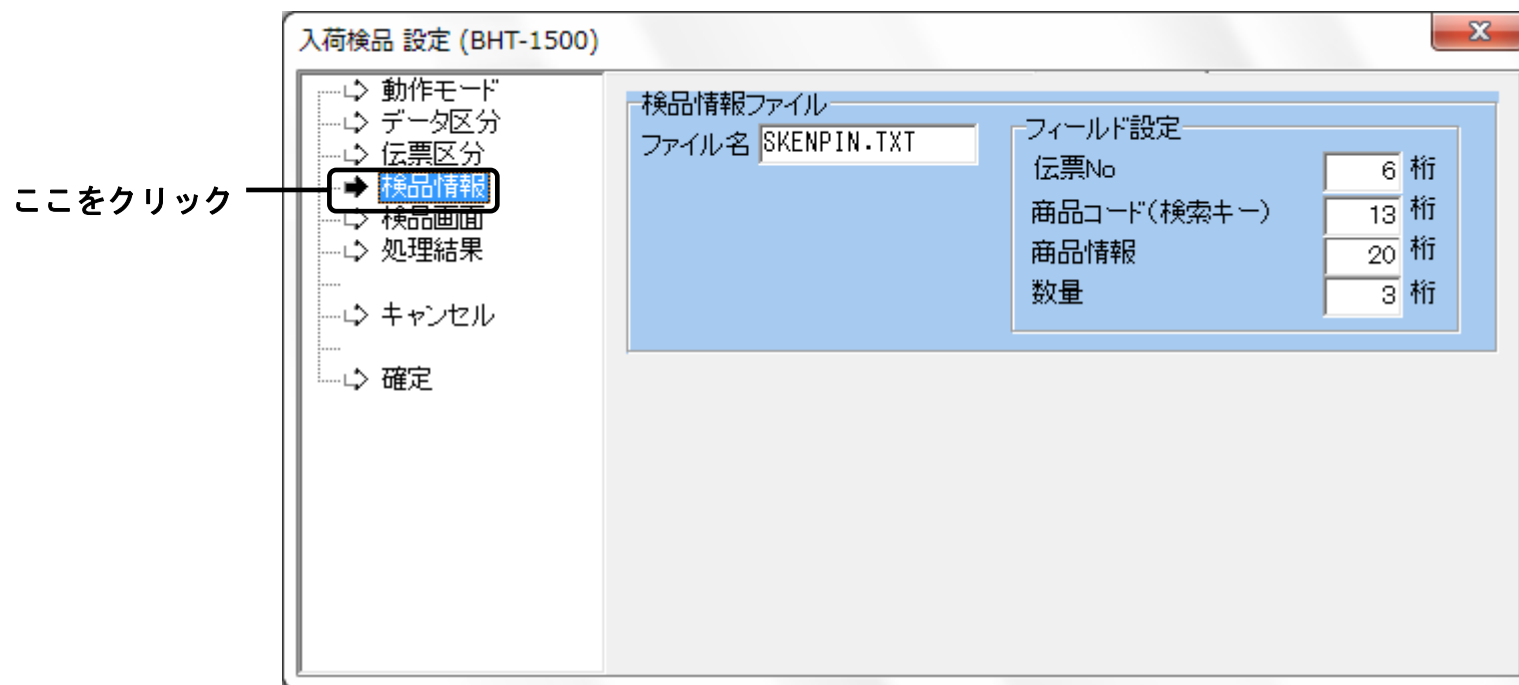


設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
バーコード読取設定	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。



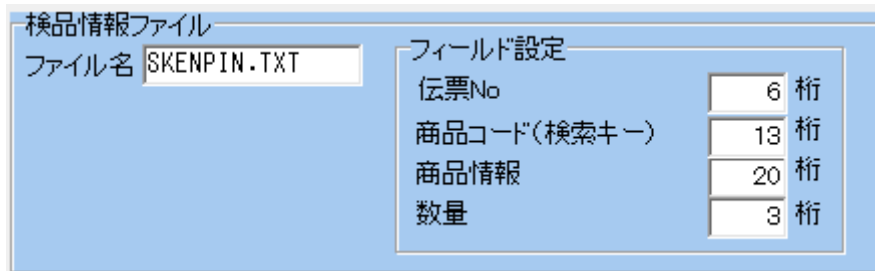
#### 4) ピッキング／検品情報

「ピッキング／検品情報」をクリックして、ピッキング／検品情報のファイル名とフィールドを設定してください。



設定項目	説明
ファイル名	ピッキング／検品の情報ファイル名を設定します。 (半角英数字 12 文字)
伝票区分	伝票区分を使用する場合に設定します。 伝票区分のデータ桁数を設定します。(1～20桁)
商品コード(検索キー)	商品コードのデータ桁数を設定します。(1～20桁)
商品情報	商品情報を表示するデータ桁数を設定します。(1～60桁)
ピッキング数／検品数	ピッキング数／検品数のデータ桁数を設定します。(1～8桁)

## ■ ピッキング／検品情報ファイル



上記の設定の場合は、次のようにファイルを作成します。

### □ P K E N M S T . T X Tデータファイル

伝票区分：6桁    商品コード：13桁    商品情報：20桁    検品数：3桁

伝票区分	商品コード	商品情報	検品数
00000120800010000010	アシストパック Pro	BHT-800001	
0000012082501000010	BHT-805BW		010
0000012082501000010	CU-821		001

・

・

### □ P K E N . F L Dのフィールド定義ファイル

6, 13, 20, 3

## 5) ピッキング／検品処理画面

商品コードのバーコード読取設定と数量入力設定をします。数量入力の場合は、入力した数量が残数以下なら残数から減算します。数量入力しない場合は、バーコードを読取る度に数量 1 として処理して、残数から 1 減算します。

ここをクリック

商品の検品数/品揃え数と未処理数を表示します。

検品/ピッキングの残り総数を表示します。

検品/ピッキングのOK NGブザーを設定します。

設定項目	説明
商品コードの バーコード読取設定	[バーコード読取設定] ボタンをクリックして商品コードのバーコード読取を設定します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。
数量入力	数量入力を設定すると数量入力項目を表示します。
OK／MG 表示時間	OK／MGを表示する時間を、1／10秒単位で0～99の数値を設定します。0を設定した場合は、表示しません。99を設定した場合は、どれかキーを押すまで表示し続けます。

●OK／NGブザー設定

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー, バイブレータ, ブザー+バイブレータから選択

## 6) 処理結果

「処理結果」をクリックして「処理結果を保存する」をチェックすると、ピッキング／検品の処理結果を保存します。

ここをクリック →

入荷検品 設定 (BHT-1500)

- ↳ 動作モード
- ↳ データ区分
- ↳ 伝票区分
- ↳ 検品情報
- ↳ 検品画面
- **処理結果**
- ↳ キャンセル
- ↳ 確定

☒ 処理結果を保存する

ファイル名 
フィールド数

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	HtNo	4
2	仕入先	6
3	伝票No	6
4	商品コード	13
5	商品情報	20
6	予定数	3
7	検品数	3
8	欠品数	3
9	日付A(YYYY/MM/DD)	10
10	時刻A(HH:MM:SS)	8

「処理結果を保存する」を  
チェック

設定項目	説明
ファイル名	処理保存して送信するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字> . <拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 10 フィールドまで設定します。
フィールド設定	HtNo, データ区分, 伝票区分, 商品コード, 商品情報, 予定数, 検品数, 欠品数, 日付, 時刻から設定します。

19

## ■ フィールド設定

処理結果保存ファイルのフィールド構成を、H t N o , データ区分, 伝票区分, 商品コード, 商品情報, 予定数, 処理数, 欠品数, 日付, 時刻から設定します。

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	HtNo	4
2	仕入先コード	6
3	伝票No	6
4	商品コード	13
5	商品情報	20
6	予定数	3
7	検品数	3
8	欠品数	3
9	日付A(YYYY/MM/DD)	10
10	時刻A(HH:MM:SS)	8

フィールドデータ	説明
H t N o	登録されている4桁のH t N o
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
伝票区分	伝票区分を設定した場合のみ設定できます。
商品コード	ピッキング／検品の処理をした商品コード
商品情報	ピッキング／検品の処理をした商品情報
予定数	ピッキング／検品予定数
処理数	処理したピッキング／検品数
欠品数	欠品処理した数
日付 A(YYYY/MM/DD)	システム日付をYYYY/MM/DD(10桁)の形式で保存します。
日付 B(YY/MM/DD)	システム日付をYY/MM/DD(8桁)の形式で保存します。
日付 C(MM/DD)	システム日付をMM/DD(5桁)の形式で保存します。
日付 D(YYYYMMDD)	システム日付をYYYYMMDD(8桁)の形式で保存します。
日付 E(Y Y M M D D)	システム日付をY Y M M D D(6桁)の形式で保存します。
日付 F(M M D D)	システム日付をM M D D(5桁)の形式で保存します。
時刻 A(HH:MM:SS)	システム時刻をHH:MM:SS(8桁)の形式で保存します。
時刻 B(HHMMSS)	システム時刻をHHMMSS(6桁)の形式で保存します。

## 7) 設定更新

「確定」をクリックすると設定データを確定して更新します。設定は業務設定データに保存します。

入荷検品 設定 (BHT-1500)

動作モード  
データ区分  
伝票区分  
検品情報  
検品画面  
処理結果  
キャンセル

☒ 処理結果を保存する  
ファイル名  フィールド数

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	HtNo	4
2	仕入先	6
3	伝票No	6
4	商品コード	13
5	商品情報	20
6	予定数	3
7	検品数	3
8	欠品数	3
9	日付A (YYYY/MM/DD)	10
10	時刻A (HH:MM:SS)	8

ここをクリック →

設定データを取り消す場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

## 2-3 業務設更新

アドインピックアップ検品を設定した業務設定に更新します。

新規作成 開く 保存 送信データ外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務設定送信  
ここをクリックする



通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信

0%

中断

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
- 5. 業務設定受信**
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る M2 実行



業務設定受信

通信ポート選択

1. CU-RS232 (115.2K)
- 2. CU-USB (460.8K)**
3. Bluetooth

M1 戻る M2 選択



業務設定送信

通信ユニットに  
セットしてください

M1 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

業務設定 送信中

50%

中断



業務設定データ...

正常終了

OK

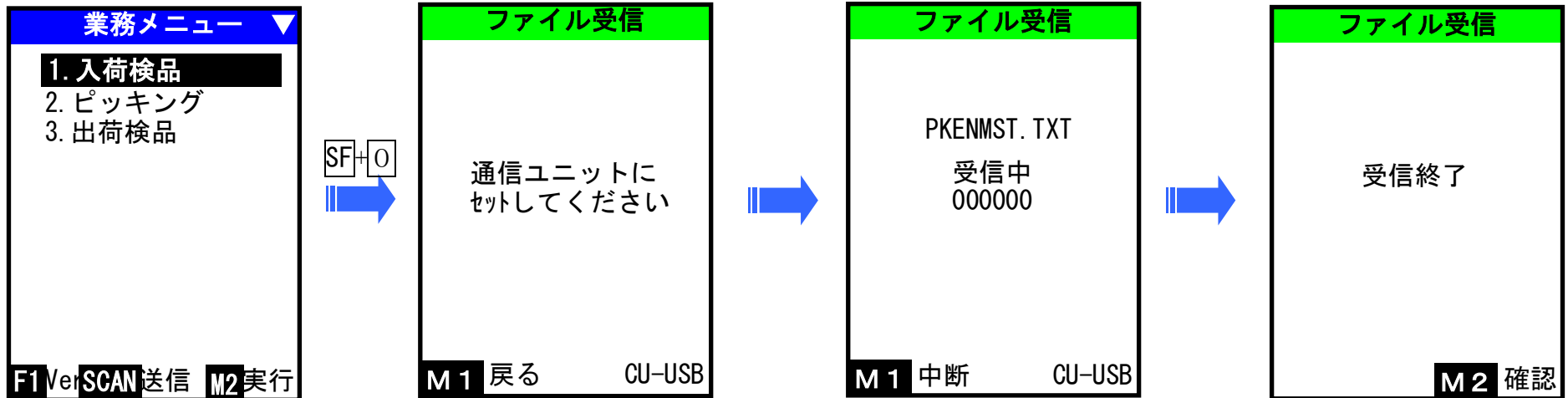




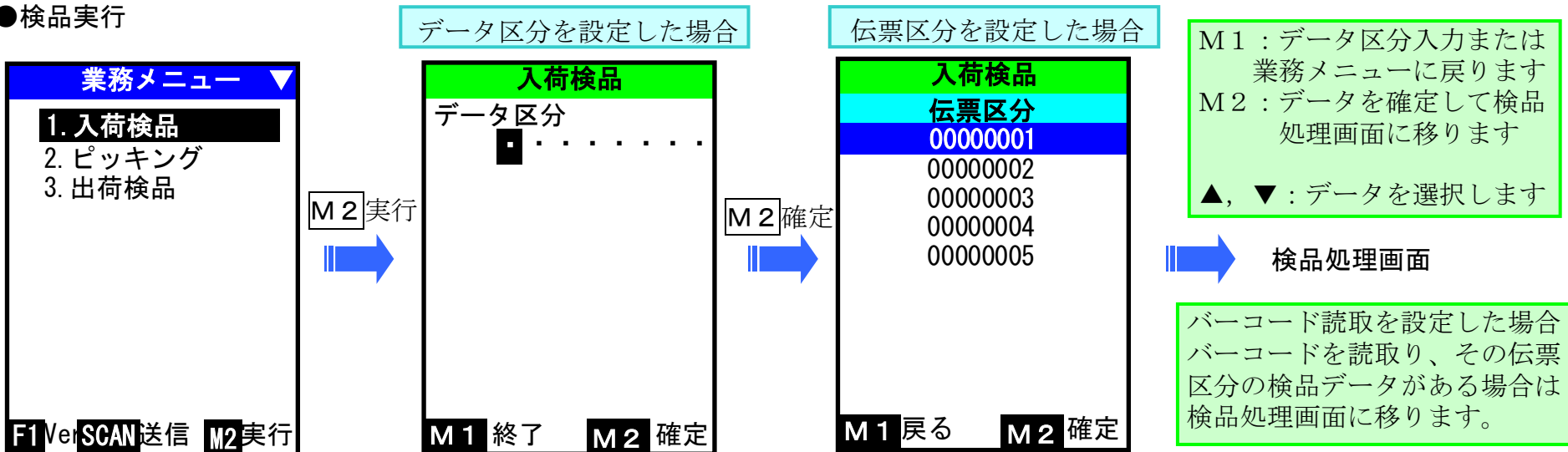
### 3 アドインピッキング検品プログラム実行

#### 3-1 検品モード

##### ●検品情報ファイル受信



##### ●検品実行



■ 検品処理画面

数量入力しない場合

入荷検品	
商品コード	
.....	
検品数	.....
未処理数	.....
残総数	1 0
M1 取消	F4 状況 M2 終了

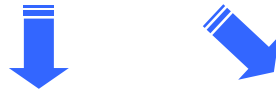
数量入力する場合

入荷検品	
商品コード	
.....	
数量	.....
検品数	.....
未処理数	.....
残総数	1 0
M1 取消	F4 状況 M2 終了

商品のバーコードを読み取り、検品情報と照合して検品します。  
検品処理数は、数量入力の場合は入力数を、数量入力しない場合は数量を1とします。

この処理を繰り返します。  
残総数が0になると、終了画面を表示します。

検品数： 検品済み数  
未処理数： 表示商品の残り検品数  
残総数： 残り検品の総数  
M1： 検品処理を取り消して前画面に戻ります。  
M2： 未処理数を欠品にして検品を終了します。  
F4： 現在の処理状況を表示します。



入荷検品	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
OK	
検品数	3
未処理数	2
残総数	9
M1 取消	F4 状況 M2 終了

入荷検品	
商品コード	2060451680006
NG	
検品数	.....
未処理数	.....
残総数	1 0
M1 取消	F4 状況 M2 終了

F4キーを押す

処理状況表示	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
検品数	3
未処理数	2
前表示：▲	次表示：▼
M1 戻る	

検品数： 検品済み数  
未処理数： 残り検品数

▲： 前のデータを表示します  
▼： 次のデータを表示します  
M1： 検品処理画面に戻ります



M2による中断終了

ピッキング	
伝票 No 00000001	
未検品データが あります	
未検品データを 欠品にして 終了しますか？	
M1 戻る	M2 終了

M2 終了



検品終了

入荷検品	
伝票 No 00000001	
検品を終了しました。	
次の検品を しますか？	
M1 終了	M2 次の検品

M2 次の検品



入荷検品	
伝票区分 00000002	
00000003	
00000004	
00000005	
M1 戻る	M2 確定

伝票区分を設定した場合  
に表示します。

伝票区分設定の場合のみ伝票  
区分を表示します。

M1 : 検品処理画面に戻ります  
M2 : 未処理データを欠品に  
して終了します。

伝票区分設定の場合のみ  
伝票区分を表示します。

M1 : 業務メニューに  
戻ります  
M2 : 次の検品処理

M2 次の検品



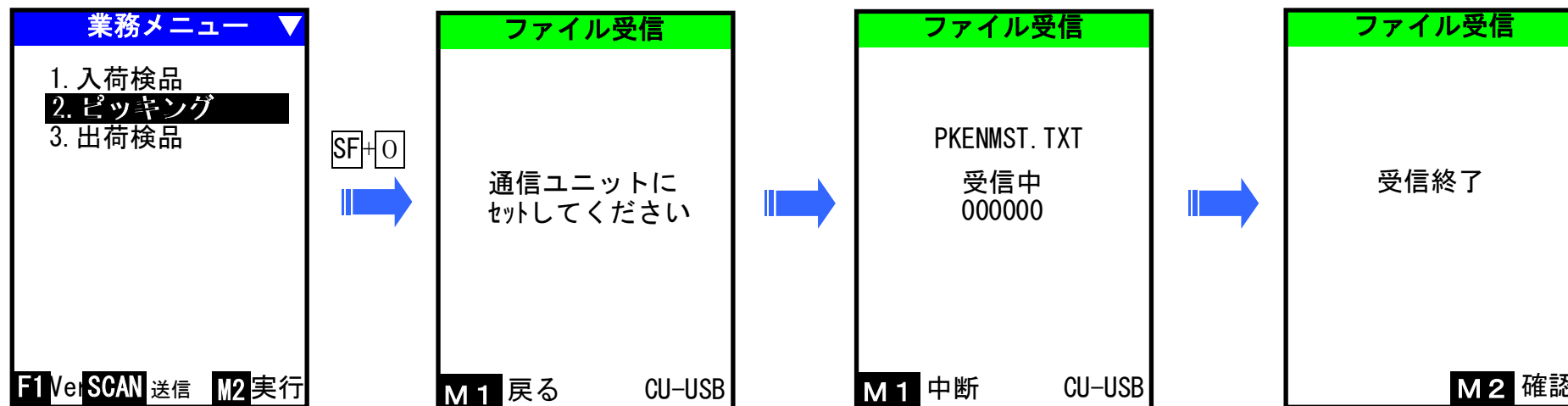
次の検品情報が  
無い場合

入荷検品	
検品情報ファイル PKENMST.TXT を 受信してください。	
M1 終了	

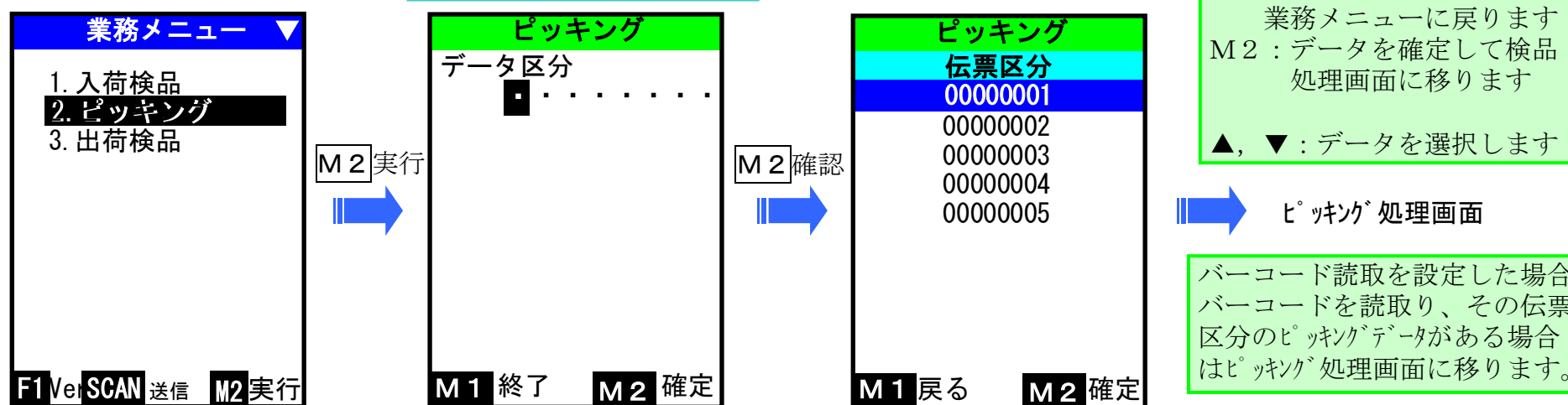
M1 : 業務メニューに  
戻ります。

### 3-2 ピッキングモード

#### ●ピッキング情報ファイル受信



#### ●ピッキング実行



# ■ピッキング処理画面

数量入力しない場合

ピッキング	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
検品数	3
未処理数	2
残総数	10
M1 取消 F4 状況 M2 欠品	

数量入力する場合

ピッキング	
商品コード	2060451680006
数量	.....
アシストパック Pro BHT-1300	
検品数	3
未処理数	2
残総数	10
M1 取消 F4 状況 M2 欠品	

ピッキング情報に登録されている順に表示される商品コードと読取ったバーコードを照合してピッキングを行ないます。ピッキング処理数は、数量入力の場合は入力数を、数量入力しない場合は1とします。

この処理を繰り返します。  
すべてのピッキングを終了すると、終了画面を表示します。

品揃え数：ピッキング済数  
未処理数：表示商品の残りピッキング数  
残総数：残りピッキング総数  
M1：ピッキング処理を取り消して前画面に戻ります。  
M2：未処理数を欠品にして次の商品のピッキングをします。  
F4：現在の処理状況を表示します。



ピッキング	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
OK	
検品数	4
未処理数	1
残総数	9
M1 取消 F4 状況 M2 欠品	

ピッキング	
商品コード	4963105110905
NG	
検品数	3
未処理数	2
残総数	10
M1 取消 F4 状況 M2 欠品	

F4キーを押す

処理状況表示	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
検品数	3
未処理数	2
前表示：▲	次表示：▼
M1 戻る	

品揃え数：ピッキング済みの数  
未処理数：残りピッキング数

▲：前のデータを表示します  
▼：次のデータを表示します  
M1：ピッキング処理画面に戻ります

# 欠品処理画面

<b>ピッキング</b>	
商品コード	2060451680006
アシストパック Pro BHT-1300	
未処理数を欠品に しますか？	
検品数	4
未処理数	1
残総数	9
M 1 戻る	M 2 欠品

M 1 : ピッキング処理画面に  
戻ります  
M 2 : ピッキング中の商品の  
未処理数を欠品にして  
次の商品のピッキング  
をします。

# ピッキング終了

<b>ピッキング</b>	
伝票 No 00000001	
ピッキングを 終了しました。	
次のピッキング をしますか？	
M 1 終了	M 2 次のピッキング

伝票区分設定の場合のみ  
伝票区分を表示します。  
M 1 : 業務メニューに  
戻ります  
M 2 : 次の検品処理

M 2 次の検品

M 2 次の検品

次のピッキング情報  
が無い場合

<b>ピッキング</b>	
伝票区分	
00000002	
00000003	
00000004	
00000005	
M 1 戻る	M 2 確定

伝票区分を設定した  
場合に表示します。

<b>ピッキング</b>	
ピッキング情報ファイル PKENMST.TXT を 受信してください。	
M 1 終了	

M 1 : 業務メニューに  
戻ります。

### 3-3 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、画面の最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

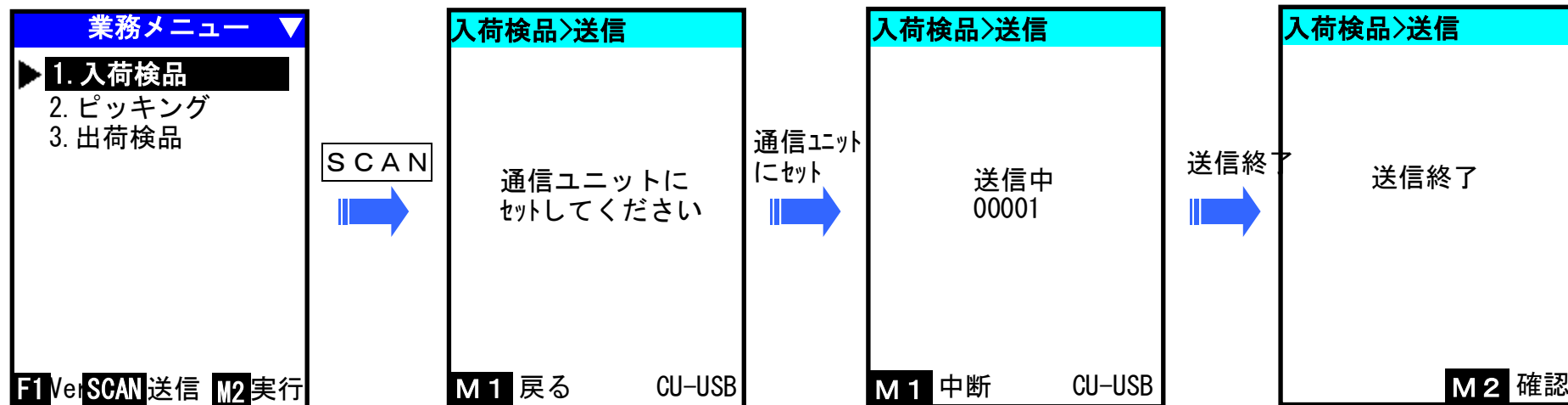
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力確定した
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0詰め表示）と数字（0サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した (例: 日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合)
バーコード桁数エラー	バーコード桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード長オーバー	バーコード長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラー発生
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない
バーコードフォーマットエラー	バーコードフォーマットエラー	バーコードのデータフォーマットに固定長以外を指定した場合のフォーマットエラー
商品コードが違います	商品コードが違います	ピッキングにおける商品のバーコード読取エラー
検品数オーバー	検品数オーバー	検品における数量オーバー
ピッキング数オーバー	ピッキング数オーバー	ピッキングにおける数量オーバー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



### 3-4 保存データ送信

業務メニューにおいて送信する保存データの業務を選択して、**SCAN**キーを押すと送信画面を表示します。



未送信の保存データがあると業務メニューに▶を表示します。

### 3-5 マスターファイル受信

業務メニューにおいて **SF+O** キーを押すとファイル受信状態になります。

